

郷土にまつわる

災害伝承

紙芝居の

作成と活用



飯田市の概要・・・ ～県南の拠点都市～

01 地勢

人口 105,335人

世帯数 37,867世帯
(平成22年国勢調査)

地勢

当市は、長野県の最南端伊那谷の中央にあり、西北部は木曾山脈により木曾郡に境し、南部は南アルプスを境に静岡県浜松市、静岡市、榛原郡本川根町、東北部は上伊那郡飯島町および下伊那郡松川町ほか3町村に接し、南西部は阿智村ほか4か村に隣接する。地理的に飯田盆地と南部高原の一部に大別され、市の中央部を北から南へ天竜川が流れている。飯田盆地は古くから商工業の中心地として栄え、総人口の約20%がここに集中している。

天竜川畔は主として水田、段丘地帯は畑地で、果樹園が散在し、周囲および南部高原地帯は急斜面で水利のよい場所には水田があるが主として山林で中には標高2,000mを超える山々があり大自然の中に美林が点在している。





飯田市赤十字奉仕団の活動

02 紙芝居班のこれまでの取り組み

紙芝居班の概要

平成12年から紙芝居を始め、現在は7名が活動中。毎年1作品ずつ制作中



紙芝居の上演

地元から県外まで各地でこれまでに制作した作品を上演。写真は平成24年度岩手県大船渡市仮設住宅と地元中学校での上演風景。



災害伝承紙芝居の製作

平成24年度は入門枠を活用して「恐怖の集中豪雨」を製作し上演。昭和36年に発生した伊那谷の戦後最大の豪雨災害の体験談を聞き取り、紙芝居にした。



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）



戦後最大の焼損面積 ～飯田大火～

03 昭和22年4月20日飯田大火発生

- ◆戦後日本三大大火のひとつ 市区町村単位で比較すると**建物焼損面積は戦後最大**
- ◆焼失面積：226万坪（73ha） ◆罹災人口：17,800人（当時の市の人口：33,760人）
- ◆焼失家屋：3,577戸 ◆損害額 当時の金額で15億円（推定）【参考】当時の配給米の価格35銭/kg
- ◆罹災世帯数4,010世帯
（店舗：2,664 住宅、寄宿舎、農家：1,165 飲食店、旅館：141 映画館、劇場、集会所：24 工場：16）



04 内務省国土局・山田正男技官 来飯

- 昭和22年4月20日 飯田大火発生
- 昭和22年4月21日 内務省国土局から山田正男技官来たる
- 昭和22年4月23日 山田正男技官を中心に都市計画大綱が定まる
- 昭和22年6月 5日 復興会議（国会議員・長野県会議員・長野県部長・飯田市理事者ほか）
- 昭和22年6月13日 都市計画土地区画整理事業決定告示（内務大臣）

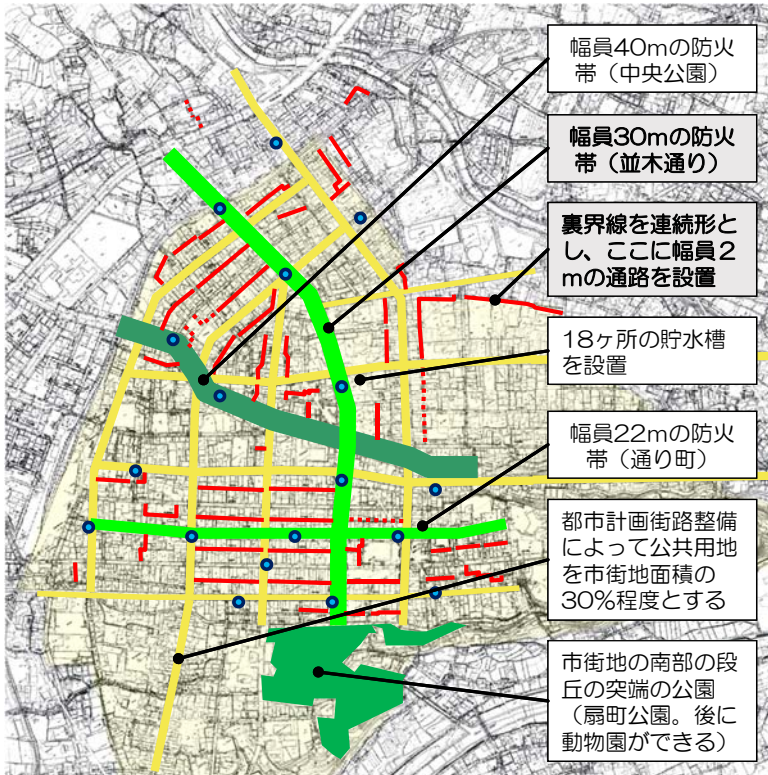
防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）





飯田大火からの復興

05 飯田市復興都市計画



06 基本方針

- (1) 市街飯田市の火災の経験と風致上の見地から、市街地の南部の段丘の突端は公園または緑地として保存する。
- (2) 地を東西南北3本の防火帯で分割し、その中に防火用水（水路並びに貯水槽）を設置し、防火機能の充実を図る。
- (3) 旧来の用水を整備し、これを防火用水としての完全利用を図ると共に、市街地に半径200メートル毎に計18ヶ所の貯水槽を設置し、これと連絡する。尚貯水池上に固定式ポンプを置き消火の万全を図る。
- (4) 旧来の街路面積は僅かに市街地の5%に過ぎず、著しく建築密度が過大であったから、街路、公園、防火帯の公共用地を市街地面積の30%程度とし、別途建築制限と相俟って適切なる空地の確保を図る。
- (5) 画地の裏界線を連続形としここに幅員2mの通路を設け、常時の利用は勿論、防火活動に資する。
- (6) 市内に寺院が18ヶ寺あるが、これは昔城の外郭に寺院を配置し、墓地の石塔が防御に利用されたものであるが、街の拡大に伴いこの墓地が街の中心部になって街の発展を阻害し、都市計画の障害にもなるのでこれを郊外に移転する。

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）



5



飯田大火からの復興

07 りんご並木の誕生

- ◆大火後、地元飯田東中学校生徒たちは、「自分たちの手で美しい街をつくろう」という夢を抱き、りんご並木を構想、1953年（昭和28年）飯田東中学校の生徒たちが37本のりんごの木を植える（以来、すべての管理工程を生徒が行っている）。
- ◆昭和30年、りんご並木にはじめて49個の実がなるも、盗難にあい、収穫は4個。全国から多数の激励文が届く。その後、収穫を徐々に増やし昭和37年には3,000個を収穫。
- ◆「ぼくらは、赤い美しい実をみのにらせることによって、まちを美しくするばかりでなく、まちの人々の心をも美しくしてゆきたいのだ。そうした社会的精神が、町じゅうに行きわたる時、はじめて、この飯田市の復興も達成されるのだと思う。」と生徒は語った。



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）



6



防災教育チャレンジプランを活用して目指すところ

08 飯田大火とりんご並木がもたらした市民主体の復興のまちづくり

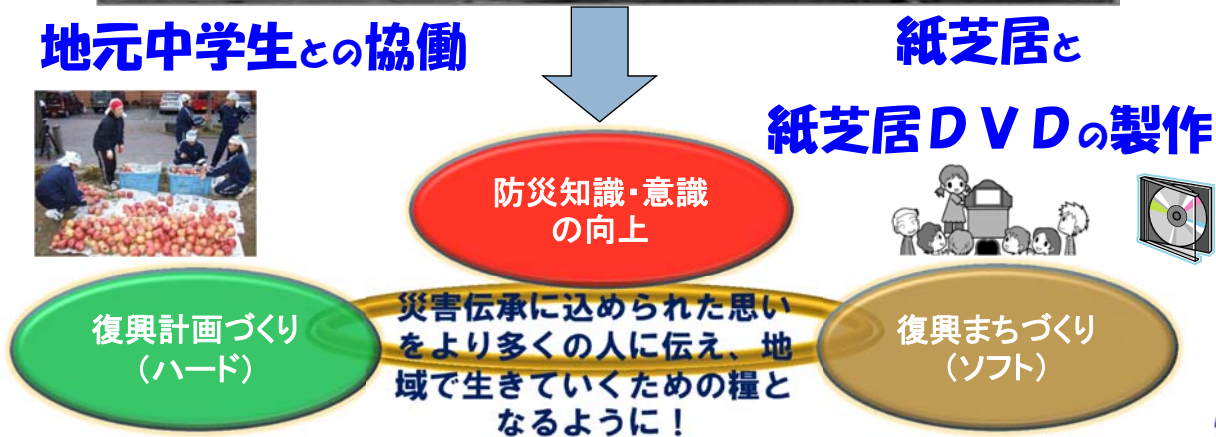
- ◆「防災知識・意識」の向上、啓発
- ◆「災害伝承」の普遍的継続と底辺の拡大
- ◆「地域に対する誇り」の醸成
- ◆「自らのまちを自らで守る」という「自治の精神」の育成
- ◆「公」の場を自らの手で維持管理、「まちづくりの基本精神」の構築
- ◆「文化的土壌」の再生

地元中学生との協働



紙芝居と

紙芝居DVDの製作



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



長野県飯田市赤十字奉仕団紙芝居班 制作

「紙芝居 飯田大火とりんご並木」



飯田市赤十字奉仕団 紙芝居班とは・・・

紙芝居班は平成12年に発足したグループで、飯田市上郷地区に暮らす女性7人で活動しています。



なぜ、紙芝居を作っているの？・・・

赤十字活動や地域で起こった災害の歴史を多くの人に知ってもらいたくて紙芝居づくりをしています。昨年度は飯田で昭和36年に起こった三六災害について紙芝居にしました。



「飯田大火とりんご並木」を制作したのは？・・・

今年、りんご並木誕生から60年という節目を迎えたこと、多くの人に大火から現在までの取り組みを知ってもらうコンパクトな映像がなかったこと、そして大火を経験した人が徐々に少なくなってきたことから制作しました。



今までにはどんな作品を作ったの？・・・

「日本の赤十字」「赤十字の父・アンリー・デュナン」「元善光寺さま」「恐怖の集中豪雨」など全部で12作品になります。資料を集めて取材をし、歴史と正確か確認し、脚本づくり、描画、選曲などすべてを自分たちでやっています。一つの作品が完成するまでに、集合作業だけで延べ28日、半年以上の期間がかかっています。



「飯田大火とりんご並木」・・・あらすじ

飯田の市街地はこれまでに7回も大火にあっています。昭和22年の大火の後、2度と大きな火災にならないよう道路を広く作り直しました。殺風景なその道に地元の中学生が“りんご”を植えたいと市に訴えました。さて、中学生たちの夢は実現のでしょうか・・・

この紙芝居は、内閣府が主催する防災教育チャレンジプランの支援を受けて制作しました。





“飯田大火とりんご並木”制作プロセス①

09 紙芝居の制作過程

①史実の調査（図書館等での文献調査2日）

②当時の体験者からの聞き取り調査（4日）

・大火経験者、りんご並木発案&市との交渉者

③脚本づくり（自宅作業）

④下絵づくり（延べ6日+自宅作業）

⑤描画作業（延べ13日+自宅作業）

⑥BGM選曲（2日）

⑦配役決定（1日）

⑧公演前練習（各公演前に最低3回）



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



“飯田大火とりんご並木”制作プロセス②

10 紙芝居の制作過程における成果と課題



聞き取り調査

○大火経験者が少なくなる中で、当時のエピソードを聴くことが出来、かつ作品に入れることができた。

●火が迫り来る状況時のことは慌てていたので覚えていないと言われてしまった。

●りんご並木誕生秘話（誰が発案したか）は本人の意向を尊重し記述しなかった。

脚本・下絵作業

○20分程度の物語にまとめるのに苦労した。

○自分自身が詳しくは知らなかったため制作できるか心配だった。



脚本・下絵作業

●当時の写真は白黒のため着色するのに苦労した。

●下絵を拡大すると物体・人間のすべてのつり合いが取れなくなり、それを直すのに苦労した。

描画作業

○それぞれの人が絵を書くため仕上げるのに苦労した。

○火の燃え方・飛び散り方、色具合、焼け跡の色使いには苦労した。

●絵の拡大等にコピー機を使ったが、濃度や操作に気を使った。時間がかかるので家人にも手伝ってもらった。



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕





“飯田大火とりんご並木”DVD制作プロセス

11 紙芝居をDVDへ —アナログ媒体とデジタル媒体の活用—

- 紙芝居を写真撮影してpptファイル化
- BGMを著作権フリーの曲から選曲（プロにアドバイスを依頼）
- 飯田東中学校の全面協力（放送室の借用、人形劇クラブ員の収録への参加）
- 音声とpptファイルを統合してマスターDVD制作して、PCを使って複製作業



1/14-15 収録の様様



DVD化により、いつでも、だれでも観て学ぶことが出来る！
災害伝承もDVDを再生する媒体さえあれば可能！

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



11



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス①

12 紙芝居上演の経過 【これまでに、6会場約750人が鑑賞】

- ①10/8 **飯田東中学校**
全校生徒216人＋教職員
- ②10/20 **福島県会津若松市長原仮設住宅**
仮設住宅居住者40人
- ③10/21 **福島県南相馬市高見第一仮設住宅**
仮設住宅居住者30人
- ④10/21 **福島県南相馬市立太田小学校**
小学2年～6年生57人＋教職員
- ⑤10/29 **日赤福井県支部地域奉仕団研修会**
地域赤十字奉仕団委員長60人
- ⑥12/7 **飯田市安全大会**
一般市民330人

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



12



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス②

13 紙芝居公演の様子



①10/8 飯田東中学校



②10/20 会津若松市
長原仮設住宅



③10/21 南相馬市
高見第一仮設住宅



④10/21 南相馬市
太田小学校



⑤10/29 日赤福井県支部
地域奉仕団研修会



⑥12/7 飯田市安全大会

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）



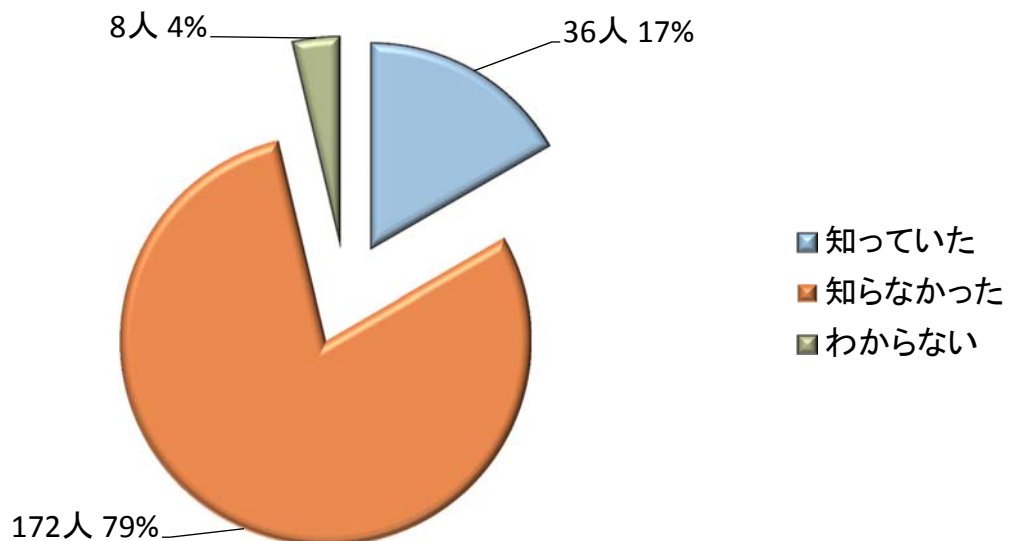
13



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス③

14 紙芝居公演アンケートから【飯田東中学校 全校生徒216人】

これまでに7回も大火があったこと、戦後最大の大火であったことを



考察：紙芝居を観る前では、町の大火の歴史や相対的な規模まで知っている生徒は少ない

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団（平成26年2月22日）



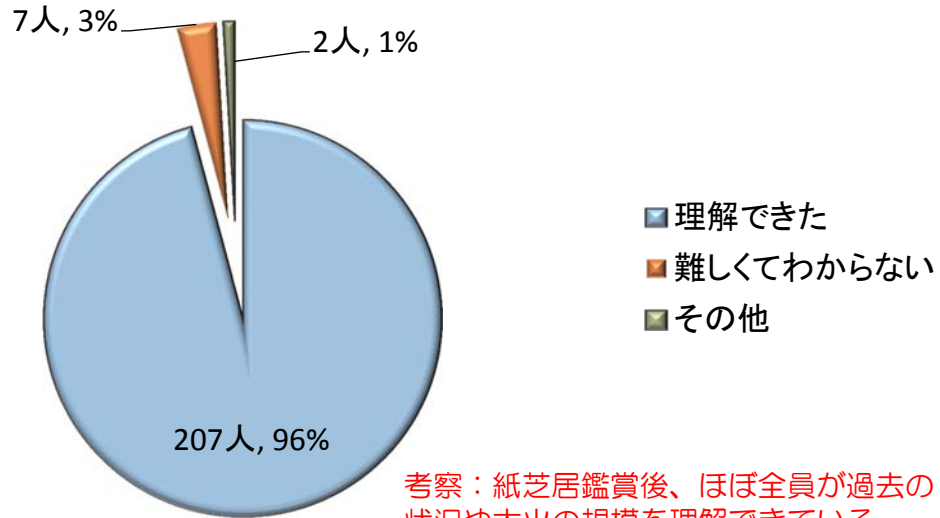
14



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス④

15 紙芝居公演アンケートから【飯田東中学校 全校生徒216人】

紙芝居を観て7回大火があったこと、戦後日本で最大
の大火であったこと、大火になりやすい街だったこと
を理解出来ましたか



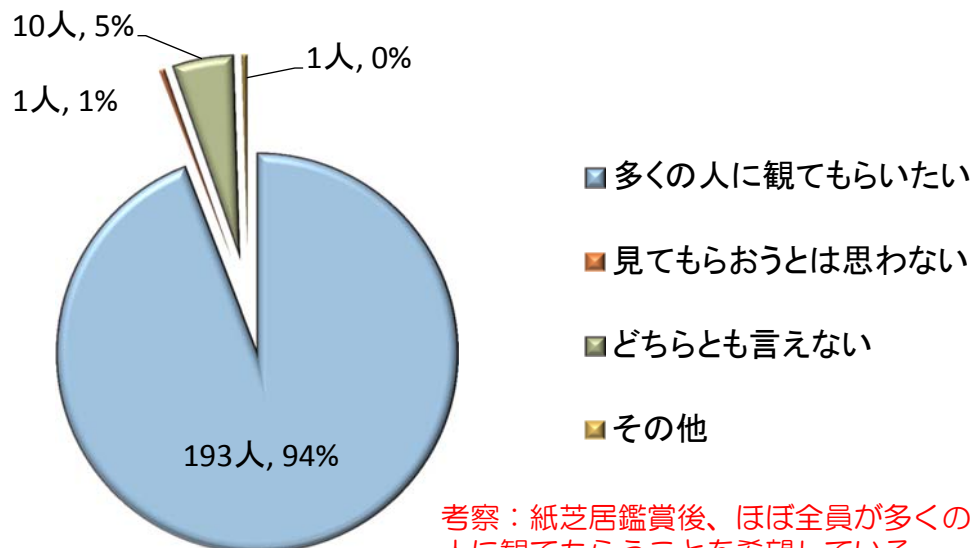
考察：紙芝居鑑賞後、ほぼ全員が過去の状況や大火の規模を理解できている。



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス⑤

16 紙芝居公演アンケートから【飯田東中学校 全校生徒216人】

この紙芝居をDVDにして各学校に配布する予定ですが
どう思いますか



考察：紙芝居鑑賞後、ほぼ全員が多くの
人に観てもらうことを希望している。

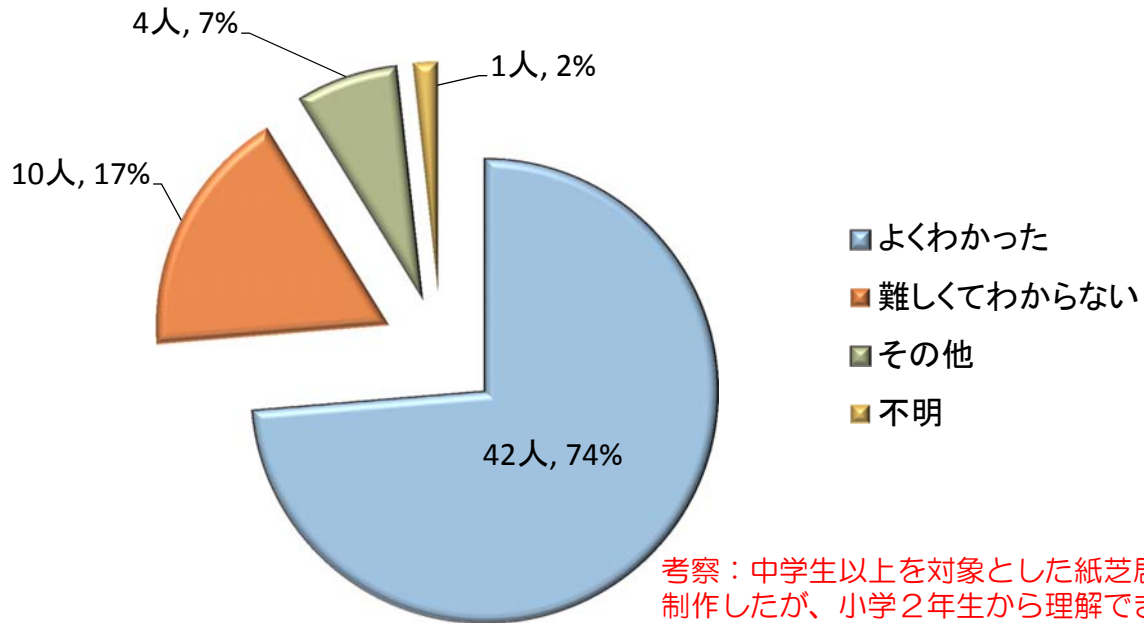




“飯田大火とりんご並木”上演プロセス⑥

17 紙芝居公演アンケートから【南相馬市立太田小学校 2年～6年生 57人】

紙芝居のお話は分かりましたか



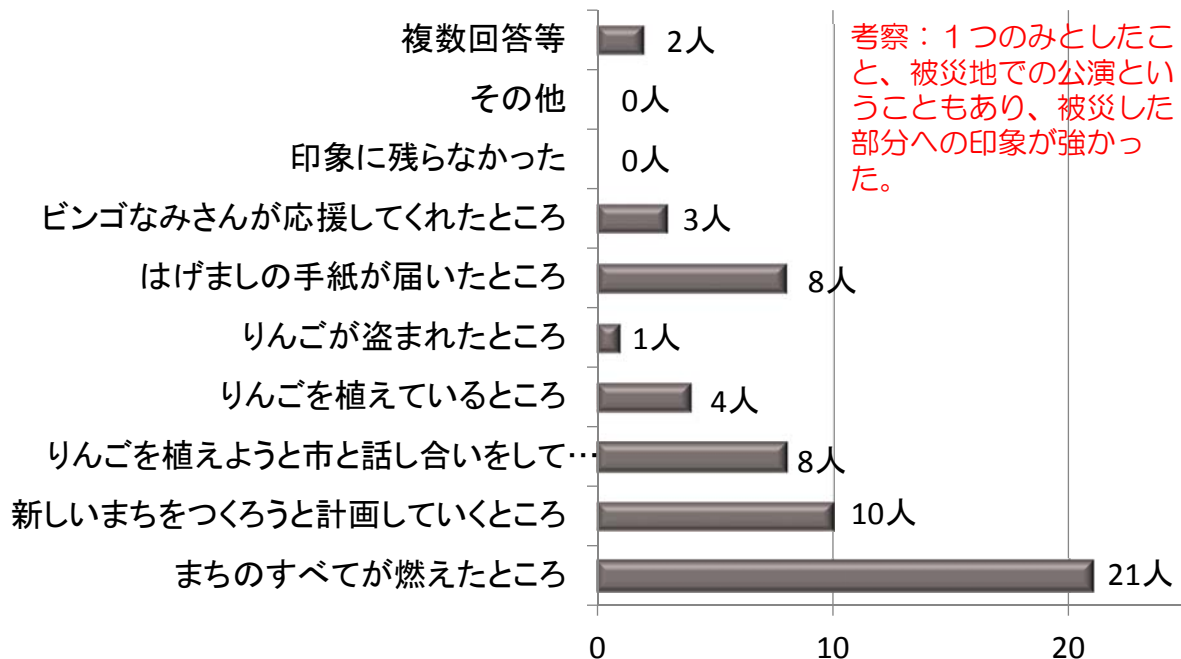
考察：中学生以上を対象とした紙芝居を制作したが、小学2年生から理解できている。



“飯田大火とりんご並木”上演プロセス⑦

18 紙芝居公演アンケートから【南相馬市立太田小学校 2年～6年生 57人】

一番印象に残った場面はどこですか。1つだけ選んでください。



考察：1つのみとしたこと、被災地での公演ということもあり、被災した部分への印象が強かった。

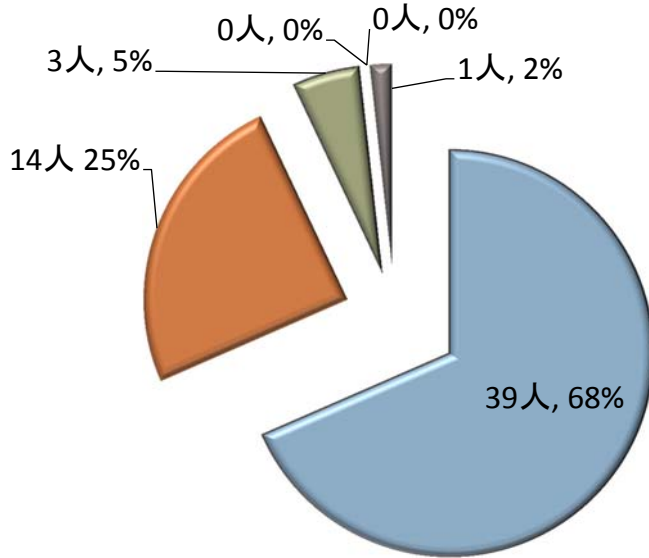




“飯田大火とりんご並木”上演プロセス⑧

19 紙芝居公演アンケートから【南相馬市立太田小学校 2年～6年生 57人】

中学生がりんごを植えることにこだわり、「りんごがなる美しいまち、それを盗まない心の美しいまち」を目標に60年も続いていることをどう思いますか。



- すごいことだとおもうので、自分も少しは考えていきたい
- 大変そうだからマネはできない。
- そういうことは当たり前だと思う
- 理解できないしやりたくない
- どちらとも言えない
- その他

考察：3/4の児童が自分でも考えたい若しくは当たり前と感じたことは、紙芝居鑑賞による教育的効果であると思われる。

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

20 他団体、地域との連携

分類	団体・組織名	協力・連携内容
学校・教育関係	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市教育委員会 ・飯田東中学校 ・南相馬市立太田小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画の了承、東中学校への連絡・協力要請、資料提供 ・公演協力、DVD収録への場所及び生徒の参加 ・公演協力
地域組織	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市内20地区まちづくり委員会（自治会） 	<ul style="list-style-type: none"> ・公演参加協力
国・地方公共団体	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市危機管理・交通安全対策室 ・飯田市上郷公民館 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字奉仕団事務局として活動全般へのアドバイス ・活動時における施設使用料の全額減免
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)コンテンツビジョン 	<ul style="list-style-type: none"> ・BGM選曲サポート、DVD編集
ボランティア団体・NPO法人・NGO等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社福島県支部 ・日本赤十字社福井県支部 ・喜多方市社会福祉協議会 ・喜多方市赤十字奉仕団 ・南相馬市原町社会福祉協議会 ・南相馬市原町赤十字奉仕団 	<ul style="list-style-type: none"> ・公演協力（仮設住宅での交流会設営を含む）、調整

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕





“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

21 苦労した点、工夫した点

※前述の成果・課題との重複する事項は割愛

立案・調整

- これまでの災害履歴から、作品化を早くしたほうが良いものの選定に悩んだ。
- 飯田東中学校の協力なしでは成り立たない企画であったため、学校側の了解を得ることが必要だった。まずは作品を観てもらうことでその後の展開に協力してもらえるよう試みた。DVDへの生徒の参加や今後の公演への生徒の参加など最終的に全面協力を得られる理想的な取り組みとなった。
- 東北の被災地の早期復興に、飯田のりんご並木の精神を少しでも活かしてもらおうと上演を計画した。当初はこれまで交流がある陸前高田市等を予定していたが、福島県赤十字奉仕団委員長からの強い要請で福島にて上演することになった。交流に対して不安もあったが、日赤福島県支部の調整で上演も交流も成功裏にいった。

準備活動

- DVD用の収録にあたり、中学生とのコラボ収録は時間的な制約もある中で一緒に練習する時間も限られる中で実施した。一度作品を観ていることと、人形劇クラブ員に協力してもらったことで、短時間で良い物になった。

実践

- メンバーはそのほとんどが農家であり、紙芝居活動時期と農繁期が重なることから、活動する日程調整等に苦労した。
- 東北の被災者を対象にした公演では、懸命に生活している方々に対して上演すること事態が失礼にならないかすごく心配したが、思いのほか好意的にこの作品を観ていただくことが出来た。
- 小学生対象の公演では、わかりやすい言葉にするべきか悩んだが、あえてそのまま上演した。結果として前後の雰囲気理解することができた。子どもの理解力を育てる効果もあった。
- 災害伝承にあたって、方言の伝承についても考慮した。また、史実調査についてもあらゆる書籍等を調べたが、刊行物による差異もあり、どれを使うか悩んだ。

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



21



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

22 プラン全般についての成果と課題

成果

- ・飯田大火の史実（戦後日本で最大であること、100戸以上の大火災を7回も経験）を自分たちも学べた。（鑑賞者もほとんど知らなかった）
- ・りんご並木誕生の秘話（誰が市と交渉したか等）を当事者からの聞き取りができた。
- ・りんご並木を管理している飯田東中学校での上演及びDVD収録の協力も得られた。
- ・DVD制作にあたって、BGM選定にあたって著作権についても学習し、問題をクリアできた。
- ・DVDを配布することによって、多くのかたに観てもらえることが出来た。
- ・上演によって、中学生をはじめとした飯田市民も詳しく史実を知ることが出来た。
- ・福島の被災地の皆さんにりんご並木の精神を理解してもらえようことが出来た
- ・YouTubeにもアップし、より多くの方に観ていただくことができるようになった。

反省・感想

- ・市民のシンボルでもあるりんご並木をテーマに作品を作ることが出来て嬉しかったし、反響も大きかった。
- ・より多くの人に、そして後世に語りついでいくものとして良い物が出来た。
- ・チャレンジプラン以外からの助成はないため、自己資金ですべてを賄っていくことは大変。しかし個人負担が大きかった東北への公演は、内容的にも交流を深める意味でも大変有意義であった。
- ・郷土にまつわる話は住民にとっても愛着があり、郷土愛を醸成できる要素である。災害伝承ではあったが地域を愛する・誇りを持つためにもこうした地道な伝承活動が大切であると感じた。こうしたことの時間的かつ人間関係の連続性が、地域の防災力やコミュニティ力を高めていくきっかけになると思われる。
- ・アナログであり日本固有の“紙”芝居と、現代のDVDを併用した災害伝承の方法はそれぞれの弱点を補う形で相乗効果があった。誰にも対応できる紙媒体も大切にしながら、郷土にまつわる災害伝承を今後も継続していきたい。

防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



22



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

23 プラン全般についての成果と課題

今後の継続

- ・DVDを市内すべての小・中学校及び図書館に配布しているので利活用を促すほか、全校朝会などでの紙芝居公演を増やしていきたい。
- ・前作品「恐怖の集中豪雨」と合わせて、今後も上演していく。この作品については中学生とのコラボ公演も計画。
(中学校了承済み)
- ・次作品は「遠山郷の集中豪雨 一昭和40年と平成22年の大災害一」(仮称)を予定。資料集めを開始した。
- ・今後は県などの支援を受けて、災害伝承紙芝居の絵本化にも着手したい。



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

24 紙芝居を鑑賞した子どもたちの感想から

・ぼくは中学せいがりんごをうえていたところがいんしょうにのこりました。(太田小学校2年)

・南相馬が平和でじんがおきないふつうのまちになってほしいです。かみしばいのようにかじやじこがおきないおもしろい町に行きたいです。ぼくたちがそういう町にしながら大人になっていきたいです。(太田小学校3年)

・東日本大しんさいで、大変な思いをしているので、飯田大火とりんご並木の気持ちは少しは分かります。これから私も、ひがいに強く生きていこうと思います。(太田小学校4年)

・少しむずかしかったけど、中学生がすごいことをやると思った。あと自分が住んでいる町はゴミが道にすててあるともあるのでそれはなくしたいです。(太田小5年)

・中学生が自分たちで考えたことをじっこうして市の人にてい案しているところがすごいと思った。それを自分たちでちゃんと気にかけているところもすごいと思った。(太田小学校6年)





“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

25 紙芝居を鑑賞した生徒たちの感想から

・そのころの中学生の発案で、その頃のことがよくわかる紙芝居だったしリンゴ並木の大切さを改めて感じることができました。60年前から地域の皆さんの支えがありこの並木があると思います。地域のかたがたに感謝しながら並木作業に取り組んでいきたいです。この紙芝居をほかの学校にも見ていただいて並木の大切さなどを知ってもらいたいです。(飯田東中1年)

・BGMもありりんじょう感あふれる紙芝居でとても勉強になりました。また、改めてりんご並木の歴史について学ぶことができたので良かったです(飯田東中2年)

・実際に世話をさせてもらっている私たちでさえ並木について、大火について知らないことがあってビックリした。飯田市民の方言や見やすい絵、語りかけるような読み方は鑑賞していてあきませんでした。紙芝居を見てより強く、並木を受け継いでいこうと感じた。私たち以外でも飯田市の歴史を知らない人はたくさんいると思うので多くの人に見てもらい見守ってほしいです。(飯田東中3年)



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

26 太田小学校長先生の感想から

飯田市には大火から立ち直った素晴らしい歴史があることがわかりました。中学生が思いを一つにして復興のためにリンゴを植えたところが印象的でした。良い考えを思いついてもそれを一緒にかなえようと頑張る仲間が集まるのが大切で初めて大きな力になり市を動かすことができるのだと思いました。南相馬も復興はまだまだですが人の心の温かさや夢をかなえることの素晴らしさ、仲間の大切さを考えながら生活していきたい。この作品は道徳の授業でも活用できると思いました。(太田小学校校長)





“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

27 全28枚の紙芝居 (1/2)



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕



“飯田大火とりんご並木”取り組みにあたって

28 全28枚の紙芝居 (2/2)



防災教育チャレンジプラン（一般枠）長野県飯田市赤十字奉仕団〔平成26年2月22日〕

